

会 議 録

名 称	令和5年度第2回目黒区地域保健協議会
日 時	令和6年1月24日（水曜日） 午後1時30分から午後3時まで
場 所	目黒区総合庁舎2階 大会議室
出席者	（委員）西脇会長、渡邊副会長、武藤委員、池田委員、寺田委員、幅田委員、近藤委員 中川委員、橋本委員、宿野委員、小川委員、百瀬委員、松原委員、入澤委員 篠崎委員、三柴委員、柏木委員、黒部委員、山口委員 （区側）石原健康推進部長、香川健康推進課長、藤田生活衛生課長、齋藤保健予防課長 兼新型コロナ予防接種課長、滝川感染症対策課長、齋藤碑文谷保健センター長
配付資料	令和5年度第2回目黒区地域保健協議会 次第 資料1-1 目黒区感染症予防計画素案（概要） 資料1-2 目黒区感染症予防計画素案（全文） 資料2 スズメバチの巣の駆除事業
会議次第	1 開 会 2 議 事 （1）目黒区感染症予防計画素案について （2）スズメバチの巣の駆除事業について 3 その他 4 閉 会
会議の結果 及び 主な発言	1 開 会 健康推進部長挨拶 2 議 事 （1）目黒区感染症予防計画素案について 資料1-1により感染症対策課長が説明。 委員： 災害時において自宅で療養されている患者さんも結構いると聞いている。その中で出している感染症予防計画素案というのは、具体的にどのようなものか。 区： 災害時には、衛生環境の悪化、避難所での生活による体調の変化、このようなことで、感染症が発生しやすい状況となることから、東日本大震災、熊本地震における経験を踏まえて、区は災害時への備えと区民への事前の普及啓発に取り組んでいく。また、災害が発生した際には、区は都と連携して、標準予防策などの周知、感染症情報の収集、感染症が発生した際の迅速な防疫措置等により、感染症の発生及びまん延の防止を図るという方針で、皆様方のご協力もいただきながら被災された方々にもどうか気持ちをしっかりと持っていただいて、可能な限りの対応をしていきたい。 委員： これからは耐性菌との戦いになっていくと思う。今後、抗生物質はなかなか新しいものが出てこないと予想されている。特にこの4年間コロナのことがあったので、抗生物質の厳格な適用がかなり崩れてしまった。今後はこの薬剤耐性の菌が出てきた場合、本当にお手上げになるが、こういうところの啓蒙をもっとしっかりやっていくことが予防策としては非常に大事だと思うが、区の見解を伺いたい。 区： 次の感染症対策の柱の一つは耐性菌という認識を新たにいたしている。区民の皆様には、ぜひ十分にご理解をいただかないといけないと考えるので、普及啓発はしっかりとやっていきたい。

委員： 外部人材、外部の専門職の確保みたいな話がなされていたが、どこまで外部の方に依存する計画になっているのか。なるべくこういうことは、内部で完結する内製化されるべきだと思うが、区の見解を伺いたい。

区： 今回のコロナ禍を経験して、本当にここは痛感し、思い知らされた部分である。コロナ禍では、庁内の応援、それから外部人材として派遣職員や委託業者の方々のお力をお借りして、ストレスで乗り切れた状況であった。次々と α 、 β 、デルタ、オミクロンと性格を変え、その度に必要となる施策、或いは業務量が増減するというような中で、時期による必要人数を的確に割り出し、計画的に配置するような計画が立てられなかった。

また、即応可能な IHEAT という仕組みができていますが、この方々にも今後、新たなまた新興感染症が起きたときに、どれぐらいの方が、目黒区に助けに行けるかということに関しては、現在のこの IHEAT というシステムでは、確約が事前にできない仕組みになっている。このような方々に目黒区が研修をするということは制度上できる。この概要の中で示している保健所における人員確保数は、5人必要なのか50人必要なのか500人必要なのかという規模感と、そのうち内部職員の応援体制、外部職員の比率まではなかなか見込めないため、その人数は規模感や目安で示している。

(2) スズメバチの巣の駆除事業について
資料2により生活衛生課長が説明。

委員：質問、意見は特になし。

3 その他
特になし。

4 閉会

以 上